

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成30年11月20日
タイトル	「芦田川用水」で水生生物生息調査！2018
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成30年10月26日（金）から28日（日）にかけて、水土里ネット福山の管理する農業用水路において岡山大学大学院環境生命科学研究科中田准教授を中心に水生生物の生息調査が行われました。

この農業用水路は疏水百選の「芦田川用水」で、最も絶滅の心配が高いため『種の保存法』で国内希少野生動植物種に指定されている「スイゲンゼニタナゴ」が生息しており、水土里ネット福山は「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会」の一員となり保全に向けて活動しています。

平成30年7月に発生した西日本豪雨では一部の水路で土砂崩れや浸水などの被害があり、生物にどのような影響があるか心配していました。

農業用水路の数箇所ですでに午前にはタモ網やエビ簀を仕掛け、午後には引き揚げてかかった魚を記録します。調査の結果、タナゴの仲間など多くの魚や「イシガイ」などの産卵母貝も確認しました。スイゲンゼニタナゴも調査開始以来最多を確認することができました。



今回の調査では、芦田川等の河川は前回調査の6月から河川の様子が一変しており豪雨災害の影響に驚いておられました。農業用水路は土砂が堆積している箇所もありましたが、全体的には豪雨災害の後にも係わらず複数の魚が生息しており穏やかな印象を受けました。

スイゲンゼニタナゴの個体数が本当増えているのか、詳細について明らかにすることが今後の課題だと思われました。

今回の調査では、豪雨災害を乗り越えて繁殖しているスイゲンゼニタナゴを始めとする水生生物に逞しい生命力を感じ、取り組みの成果が出てきていることを実感しました。

水土里ネット福山は、これからも管理する疏水「芦田川用水」にスイゲンゼニタナゴをはじめ多様な生物が生息できるよう協議会の活動に協力し、自然環境を守る農業用水路の役割と重要性を発信してまいります。